



鴨川グランドホテル<9695>、MBOで株式を非公開化



鴨川グランドホテルは10日、MBO（経営陣による買収）で株式を非公開化すると発表した。国内投資ファンドの日本産業推進機構（東京都港区）の傘下企業がTOB（株式公開買い付け）を行い、議決権ベースで全株取得を目指す。鴨川グランドホテルは新型コロナウイルス感染拡大による稼働率の急低下などで業績が悪化し、2021年3月期は約5億円の債務超過に陥った。ファンドの支援を得て、鴨川グランドホテルは鈴木健史社長のもとで経営の立て直しを進める。TOBが成立すれば、同社のジャスダック上場が廃止となる。

TOB主体は日本産業推進機構が設立したNSSK-V（東京都港区）。TOBは2回に分けて行われ、第1回は鈴木社長の親族らの保有株式を対象とし、1株の買付価格はTOB公表前日の終値265円から54.72%を割り引いた120円。金融機関や一般株主を対象とする第2回TOBでの買付価格は290円で、9.43%のプレミアムを加えた。第1回と第2回を合わせた買付代金は17億129万円（普通株式）。

第1回の買付期間は12月13日～2022年1月14日。決済の開始日は1月20日。公開買付代理人はSMBC日興証券。第2回の買付期間は1月24日～2月21日。

TOB成立後、鈴木社長らは鴨川グランドホテルに2億円を出資する予定。

鴨川グランドホテルは1952年に吉田屋旅館として創業。1965年に千葉県鴨川市にホテルを開業した。1990年に店頭市場（現ジャスダック）に株式を上場。鴨川グランドホテルのほか、ホテル西長門リゾート（山口県下関市）を運営する。